

スポーツ基本計画部会（第3期）（第9回）における主な御意見

※論点および各項目はスポーツ基本計画部会（第9回）の情報を記載

論点1 関係（基本計画における目標等の設定についての考え方）

1. スポーツを通じた社会課題※の解決や、自然・社会環境の変化に対応した環境づくりを目指し、目標等を設定
※健康長寿社会や共生社会の実現、地域や経済の活性化、デジタル化の中での豊かなつながり等
○ 目標に掲げる指標等は、単なる積み上げではなく、社会課題の解決の観点から検討。必要かつ現実的な目標となるよう留意。

- スポーツ基本法が、スポーツの「振興」から社会課題の「解決」へと大きくシフトチェンジしており、グローバルスタンダードも「振興」から「解決」へのシフトチェンジをしている。社会課題とスポーツの価値の対応関係を大まかに示すことも考えられるか。
- 社会課題の解決からバックキャストするということは、スポーツの必要性が入口となる。
- 目標や課題が、きちんと連携するような横串を刺す論理を作ることが重要。
- 国際情勢が不穏な中で、オリンピック憲章などにもあるように、スポーツはまさに平和の基盤であるということを主張すべき。
- 改正されたスポーツ基本法に様々なヒントがあると考え。改正の理念を具体化するためには、「スポーツ×○○」という視点から、どのような社会課題を解決できるのか、という点を明確に記述することで、スポーツの価値向上につながると思う。
- 各地域でのスポーツのエコシステムを抜本的に作り直す必要。

2. 幅広い分野の関係者が共感でき、目標実現に必要な投資や人の流れを生み出す視点を重視
○ 分野縦割りではなく、体系的に分かりやすく示すことを意識。

- スポーツの価値を上げていく上で、その場限りにならない継続的な活動、そしてそれが経済的に寄与するような活動になっていくことが、スポーツの価値を上げていく一つの観点。
- 社会課題の解決なども含めて、最終的にはスポーツの産業化の推進につながることを望ましい。スポーツ界全体の発展などにもつながることになる。
- スポーツ活動がどのような投資価値を持つのかを示す必要。その際に、投資価値が、スポーツを通じた連携・協働の先にあるという方向性を重要視しないと、単なる消費文化に飲み込まれてしまう恐れ。
- オールジャパン体制で、各団体が連携・協力することが、効率化の観点からも必須。
- 全国に散らばる様々な団体やリソースをいかに繋げていくかが大切。

3. 幼児期から高齢期まで生涯を見通したウェルビーイングの実現と、社会の成長・発展に貢献する視点を重視

○ 一人一人のライフスタイルや環境の違い、地域差等も踏まえつつ、意識や行動の変化を促す。

- 各地域でのスポーツのエコシステムを抜本的に作り直す必要。
- ハイパフォーマンス、ライフパフォーマンス、グラスルーツの各領域を分けずに考えるべき。また、各領域で獲得した知見やデータを他領域と共有できるようなシステムをオールジャパン体制で構築すべき。
- スポーツ実施率に関しては、スポーツをする場所と空間の確保について明記すべき。
- 障害者スポーツは、高齢者スポーツや「ゆるスポーツ」などの現場において垣根が低くなっている今、どのように扱うかについては議論が必要。
- パラスポーツに限らず、スポーツの中には多様性があり、インクルーシブな状態が理想の形である。この理想にどこまで到達できたのか等によって、障害者スポーツの取り扱いについて検討すべき。
- 社会の成長発展と同時に、人が豊かに暮らすことができること、成熟した社会だからこそできるものがスポーツの意義。
- 個人と社会のウェルビーイングの実現に必要な導き手となる指導者とはどのような人なのか、そのための環境づくりとしての施設とはどのようなものなのか、そのために必要なライフスタイルとはそれぞれどのようなものがあるのか、などの視点が考えられるか。
- 部活動の地域展開等に当たっては、子供たちの問題だけではなく、高齢者が一緒にスポーツをすることにつなげ、培った様々なデータを収集する仕組みを作ることが持続的なスポーツ政策につながるのではないか。
- 部活動の地域展開等が進んで行く中で、各地域スポーツクラブ等に任せるのではなく、国立スポーツ科学センターやハイパフォーマンスセンター等とつなぐシステムを構築することもオールジャパン体制の一つとして考えられるか。

4. アスリート・ウェルビーイングを土台としたハイパフォーマンスの追求

○ メダル獲得数だけではなく、アスリートに配慮した国際競技力の向上を目指す。

- アスリートのみならず、スポーツに関わる指導者、関係者を含めるべき。それら全ての者の追求目標が、国際競技力のみならず、国際マネジメント能力、国際的なスポーツの発展につながる。
- アスリート・ウェルビーイングは、心理の問題だけではなく、海外の情勢等も踏まえ、議論すべき。
- ハイパフォーマンスを追求する社会的意義を明確にする必要。
- ハイパフォーマンスの研究や実践の中での成果を、ライフパフォーマンスにどのように還元していくのかが問われてきている。

- ▶ 指標の設定の際には、これからどのような環境が必要となるのか、という観点からブレイクダウンする必要がある。
- ▶ モニタリングと評価の基準をどうするかについて明確にし、定点観測することが必要。
- ▶ 基本計画においては、理念を書き込む必要。その際には、個々人にとっての意義が分かるようにし、各個人の意識啓発、行動変容を呼びかけるものとする必要。
- ▶ 目標の指標として、シンボリックなものを一つか二つ示し、計画のテーマとして打ち出すことで、国民の心に届くのではないか。
- ▶ 個人の行動に関連する施策を記載することも考えられるか。